

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の指標一覧[基礎交付分]

資料2-1

事業名	シート No.	個別事業名	総予算額 (円)	国費充当額 (円)	決算額 (円)	不用額 (円)	KPI	担当部課等	指標値 (単位)	目標年月	実績値 (単位)	フォローアップ	評価			効果発現要因
													有効性	効率性	総合評価	
つくばの資源(文化・芸術・スポーツ・科学技術等)をいかした地域活性化事業	基-1	科学技術等のつくばの魅力・特性をいかしたプロモーションイベントの実施	550,000	522,500	524,700	無し	イベント来場者数	科学技術振興部科学技術・特区推進課	200 人	平成27年10月	282 人	確定	高:成果が向上(高水準を維持)している	中:適切な費用対効果が得られている	A:成果を維持して継続実施	国際科学技術博覧会(TSUKUBA EXPO'85)開催を機に設立された(公財)つくば科学万博記念財団と連携し、様々な企画を盛り込んだシンポジウムイベントを企画したことで、市の内外から注目を集め、来場者の増加につながった。また、アンケート調査結果より、非常に満足度の高いイベントとなった。
	基-2	海外向けプロモーション動画の作成	4,439,600	4,217,620	4,399,920	無し	番組・動画モニター者(外国居住者)の6割以上につくば市への来訪動機を生む	市長公室シティプロモーション室	6 割	平成28年3月	- 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	多文化共生施策の展開により、外国人が暮らすという点がつくば市の魅力として番組に盛り込まれ、イメージアップにつながると思われる。
	基-3	科学技術と融合したアートフェスティバルの実施	7,010,000	6,660,000	4,730,000	1,930,000	イベント来場者数	市民部文化振興課	3,000 人	平成28年3月	2,162 人	確定	低:成果が低下(低水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	C:費用対効果を維持し、成果を向上させる必要あり	前年度から引き続きの事業であるため来場者の増員を見込んでいたが、イベントの認知度を高めることができなかった。
	基-4	つくばならではのスポーツ環境づくり	1,971,420	1,873,000	1,623,973	249,027	イベント来場者数	市民部スポーツ振興課	700 人	平成27年10月	560 人	確定	中:適切な成果が得られている	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	D:費用対効果を向上させる必要あり	時間的な問題もマイナス要因の一つにあると感じる。開催時期は学校行事等様々な事業が集中しているが、その中で市民の方に参加いただく事業を再考していきたい。
シティプロモーションと観光機能の強化事業	基-5	Bivi(2階)の利活用における新たな観光拠点・機能の創出	3,532,680	3,300,000	3,532,680	無し	Bivi利用者数 年間12,000人以上	市長公室シティプロモーション室	12,000 人	平成28年3月末	10,866 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	H27. 9に新たにオープンしたばかりの施設のため、当初は多くの利用者が訪れたが、発信する情報の質・量・手段等定まっておらず程度が低い指標値程度の実績値にとどまった。
	基-6	科学のプロモーション製品の導入(科学技術体感機器)	2,000,000	1,752,000	1,646,320	105,680	年間 Bivi利用者数 12,000人以上	市長公室シティプロモーション室	12,000 人	平成28年3月末	10,866 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	機器の設置がH27. 12の下旬からのため認知度が低い、また機器の機能が使い切れていないため、指標値程度の実績値にとどまった。
	基-7	無料Wi-Fi(外国人向け)の設置	118,000	100,000	31,631	68,369	Bivi利用者数	経済部観光物産課	17,500 人	平成28年3月	28,800 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	Biviつくばの注目度と関東鉄道のバスケットセンターの併設しているため相乗効果もあり、利用者の増加につながった。
	基-8	Bivi(1階)の利活用における新たな観光拠点・機能の創出	4,431,240	4,260,000	4,233,600	26,400	Bivi利用者数	経済部観光物産課	17,500 人	平成28年3月	28,800 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	Biviつくばの注目度と関東鉄道のバスケットセンターの併設しているため相乗効果もあり、利用者の増加につながった。
	基-9	筑波山観光ボランティアガイドレベルアップ事業	432,000	400,000	432,000	無し	マナーアップ講座や研修視察への参加者数	経済部観光物産課	120 人	平成28年3月	132 人	H28.3	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	事業が3年目をむかえ、ボランティアガイド全体の意識の向上や茨城県による「いばらき観光おもてなし条例」の設定などによる気運の醸成などにより増加につながった。
しごとづくり・創業支援と若者人材等の還流及び育成・定着支援事業	基-10	大学生就職プラットフォーム事業	5,215,000	4,950,000	4,950,000	無し	マッチング相談30件数	経済部産業振興課	30 件	平成28年3月	170 件	確定	高:成果が向上(高水準を維持)している	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している	S:成果・費用対効果を維持して継続実施	関東近県の大学まで面接会の周知広報を積極的に行ったことにより、開催時期が1月にもかかわらず、当初想定していた以上に多くの学生が来た。 ・市内大学生だけでなく、市内出身の大学生や親から関心が寄せられた。
	基-11	つくばホンモノブランド支援事業(つくばホンモノブランド販路拡大支援補助金)	2,700,000	2,483,000	352,000	2,131,000	取引に結びついた件数:5件	経済部産業振興課	5 件	平成28年2月	2 件	H28.3	低:成果が低下(低水準を維持)している	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	E:抜本的な見直しの必要あり	技術系ベンチャーによる新製品販路拡大に向けた利用はあったが、地域資源を活用や6次産業化、農工商連携等の商品での利用を見込んだが申請がなかった。
	基-12	つくばホンモノブランド支援事業(つくばホンモノブランド知的財産権取得支援補助金)	1,000,000	1,000,000	600,000	400,000	商品化に向けた具体的な取り組み商談件数:5件	経済部産業振興課	5 件	平成28年2月	2 件	H28.3	低:成果が低下(低水準を維持)している	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	E:抜本的な見直しの必要あり	技術系ベンチャーによる新製品販路拡大に向けた特許権取得はあったが、地域資源を活用した製品等を開発・製造に関する商標権等の知的財産取得の申請はなかった。
	基-13	創業者定着支援事業(つくば市中心市街地活性化創業補助金)	6,000,000	5,700,000	2,000,000	3,700,000	実際に創業に結びついた件数:3件	経済部産業振興課	3 件	平成28年3月	1 件	H28.4	低:成果が低下(低水準を維持)している	低:費用対効果が低下(低水準を維持)している	E:抜本的な見直しの必要あり	中心市街地以外の問い合わせが数件入るなど、対象エリアの縛りにより件数が伸び悩んだ。
子育て環境の整備事業	基-14	つくば市あかちゃんの駅整備事業	200,000	200,000	199,800	無し	赤ちゃんの駅整備数	福祉部こども課	1 箇所	平成28年3月	3 箇所	確定	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	交流センターと連携し、整備を促進できた。
	基-15	子育て世代お出かけ支援マップ作成事業	300,000	200,000	299,160	無し	赤ちゃんの駅整備数	福祉部こども課	1 箇所	平成28年3月	3 箇所	確定	中:適切な成果が得られている	中:適切な費用対効果が得られている	B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施	あかちゃんの駅だけでなく、公園や児童館等の情報も掲載し、多様な情報を提供できた。

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の指標一覧[上乘せ(タイプⅡ)]

事業名	事業の概要・目的	総予算額 (円)	国費充当 額(円)	決算額 (円)	不用額 (円)	シート No.	KPI	担当部課等	指標値	(単位)	目標年月	実績値	(単位)	フォロー アップ	評価			効果発現要因
															有効性	効率性	総合評価	
生活支援ロボット 普及促進事業	・ロボットの利用を検討する介護施設 や物流センター等を対象に体験会を開 催し、効果を体験する機会を提供す る。体験会に参加した事業所等のう ち、希望する事業所等に対し、ロボット 企業と調整した上で期間を設定し、市 が一部費用を負担してロボットの導入 効果を検証するためのトライアルユ ースを実施する。 ・生活支援ロボットの普及を図ることが 本事業の目的。	2,183,000	2,100,000	635,040	1,547,960	タイプⅡ -1	トライアルユース利用台数	科学技術振興部科学技 術・特区推進課	10	台	平成28年 3月	6	台	H29.3	中:適切 な成果が 得られて いる	中:適切 な費用対 効果が得 られてい る	B:成果・ 費用対効 果の向上 に努めつ つ継続実 施	国が補正予算事業「介護ロボット導入支援特別事業」 を実施し、本格導入を促進したため、本格導入前のト ライアルユースに重点を置いた当該事業の利用者 (介護保険施設)が当初想定より減少した。
						タイプⅡ -2	生活支援ロボットを導入する 物流センター等	科学技術振興部科学技 術・特区推進課	2	社	平成28年 3月	3	社	H29.3	高:成果 が向上 (高水準 を維持)し ている	高:費用 対効果が 向上(高 水準を維 持)してい る	S:成果・ 費用対効 果を維持 して継続 実施	ロボットの導入ニーズを掘り起こし市内の介護保険施設、 工業団地内企業及び物流倉庫業者とロボット企 業をうまくマッチングすることができた。
つくばロボットフェ スタの開催	ロボットのイベントを開催することを通 じ、つくば市の取組の紹介、つくば発 のロボット・技術の紹介等を行うこと で、「ロボットの街つくば」「科学の街つ くば」を広くPRする。また、G7関係各 国に係るロボットの紹介等を行うこと で、G7科学技術大臣会合がつくばで 開催されることの周知に繋げる。	7,696,000	5,000,000	5,000,000	無し	タイプⅡ -3	当該事業への入場者数	科学技術振興部科学技 術・特区推進課	3,500	人	平成28年 3月	3,500	人	確定	中:適切 な成果が 得られて いる	中:適切 な費用対 効果が得 られてい る	B:成果・ 費用対効 果の向上 に努めつ つ継続実 施	ロボットの街つくばを広く周知することができた。 また、アンケート回答者のうち、56%の人が当該事業 を通じてG7科学技術大臣会合のつくば開催を知った との回答があり、多くの人に開催を周知することが できた。
結婚・出産・子育 てに関するライフ プラン啓発事業	出生率低下の主な要因の一つとして、 晩婚化の進行等による未婚率の上昇 があげられ、ライフプランを意識する機 会を早期に設定することにより、晩産 化の解消を図ることを目的とする。 これから結婚を考える人・未来の親と なる高校生向けに、ライフプランを検討 するための参考となる情報(結婚・出 産・子育て等に関わるライフプラン)を まとめたパンフレットを配布する。	2,428,000	1,700,000	2,428,000	無し	タイプⅡ -4	結婚に関する意識の向上(つ くば市民意識調査「いつか は結婚したい」)	保健医療部健康増進課	85.0	%	平成28年 3月	-	%	平成28年	中:適切 な成果が 得られて いる	中:適切 な費用対 効果が得 られてい る	B:成果・ 費用対効 果の向上 に努めつ つ継続実 施	H28年3月にアンケート調査を実施するため、数値は H28年4月頃の見込みとなる。
つくばライフスタ イルセミナー	年間1万人を超えるつくば市からの転 出者のうち、4,000人は20代の若者で あり、多くが就職に伴い転出する状況 にある。一方で、就職活動における情 報は基本的に大都市圏のものであり、 就業・生活の地としての地方はイメ ージされにくい状況にある。 市内大学の就活生を対象に、つくばで 働き・暮らすライフスタイルを提案する セミナーを実施することで、居住コスト や子育て環境を含めたつくばの「住み やすさ」を伝え、就職による転出を抑 制する。	1,400,000	1,200,000	1,200,000	無し	タイプⅡ -5	卒業後につくばに住み続けた い割合の増加(大学生進路動 向調査「つくば市に住みたい か(単身時)」「住みたい・どち らかといえば住みたい」 ■セミナー開催時のアンケ ー調査によるつくば市に住み たい割合の増加(受付時・セ ミナー終了後)計測	経済部産業振興課	50.0	%	H28年3 月	86.0 セミナー 受講者ア ンケート 回収結果 における つくば定 着希望割 合	%	H28.3	高:成果 が向上 (高水準 を維持)し ている	中:適切 な費用対 効果が得 られてい る	A:成果を 維持して 継続実施	市内大学生の転出対策を主眼としたが、市内外の 大学生も含め、つくばに関心を持つ学生向けにも広 報を行った結果、市内大学出身者だけでなく、つくば 市出身、市外出身者の参加が見られた。受講者には つくばの魅力が伝わり、セミナー後のアンケート結果 つくば定住、つくばで就活意識が高まる結果となっ た。

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の指標一覧[上乘せ(タイプI)]

事業名	全体の事業内容、金額及び期間	総予算額 (円)	国費充当額 (円)	決算額 (円)	不用額 (円)	シート No.	KPI	担当部課等	指標値	(単位)	目標年月	実績値	(単位)	フォローアップ (H27数値確定) の時期	評価			効果発現要因
															有効性	効率性	総合評価	
「健幸長寿日本 一をつくばから」 ～ 元気な高齢 者がまちに活力 を生みだす ～	【内容】この事業は若い世代から 高齢者までの全世代の方に対し て、健康づくりに取り組むために、 様々な会場で健康に関する新し いメニューで運動や食事に重点 をおいた多世代交流出前教室事 業を実施し、また企業や金融機 関等と連携共催することで、地 域の活性化を図る。内容はイン ストラクターやリハビリ専門職に よる体操や運動普及推進員によ るスクエアステップ教室、健康や 食事等に関する保健師・栄養士 等による健康講話、食生活改善 推進員による話や試食等により 普及啓発することで健康意識を 高めていく。 【金額】21,652千円 【期間】H28年1月～H28年3月	21,652,000	21,652,000	17,000,000	4,652,000	タイプ I -2	高齢者が安心して住み続けら れる環境の内、不足している ものとして「健康づくりや介護 予防事業」を選ぶ人の割合	保健医療部健康増 進課	6.0	%	H28年3 月	21.6	%	確定	低:成果 が低下 (低水準 を維持)し ている	中:適切 な費用対 効果が得 られている	D:成果を 向上させ る必要有 り	数値は悪化したがる、市民 に必要性そのものを認知 されてきたと考えられる。
						タイプ I -2	運動教室参加者の年間医療 費(診療費及び調剤のみ)の 削減	保健医療部健康増 進課	50,000,000	円	H28年3 月		円	H28.4	中:適切 な成果が 得られて いる	中:適切 な費用対 効果が得 られている	B:成果・ 費用対効 果の向上 に努めつ つ継続実 施	速報値であるが、H26年 度の国保加入者の1人当 りの診療費(全体)は、H25 年度と比較すると伸び率 が6.93%減少しているた め、運動教室参加者につ いても医療費削減が期待 できると思われる。
						タイプ I -3	軽度認定者率(要支援1～要 介護2まで)の削減	保健医療部健康増 進課	60.0	%	H28年3 月	62.9	%	H28.5	低:成果 が低下 (低水準 を維持)し ている	中:適切 な費用対 効果が得 られている	D:費用 対効果を 向上させ る必要有 り	H27年12月末で、4月よ り軽度認定者率は61. 9%から62.9%に若干 増加した。事業が開始し て間もないことから今後さ らに健康への意識付けを 高めていく必要がある。